

冬の雑木林 その② 春を待つ虫の観察会 by カニ山の会

ちょっと季節遅れの記事ですが 2月14日にカニ山で行った虫の観察会のようすです。冬の雑木林にはどんな虫たちがいたのでしょ。講師は昆虫大好きハカセの石川さんです。

集まった一般参加者の方とカニ山メンバーが野草園横から自然広場へ向かいます。先ず目に付いたのは途中の崖にくっついている筒状の真綿のようなもの。石に張り付き地面までもぐっています。これは夏に産卵するシグモの巣です。今は巣の中でえさを狙いながらひっそり一人暮らしというところでしょうか。

自然広場に着いた参加者が木の根元や枝の又などを探すと、次々に小さな虫が採れました。ムカデ(アカムカデ)は毒があるので注意。よく似ているけどもっと沢山の足があるのはヤスデ。これは一つの節から2対の足が出ているそうです。お次は枯葉の下にいたダンゴムシ。これとよく似たワラジムシは丸まる技を持っていません。そして小さく丸まった白っぽい幼虫はコメツキムシだそうで、こちらは成虫も見つけることができました。

カメムシの仲間のエサキモンキツノカメムシも発見。背中に黄色いハート形の紋があるのでとてもわかりやすいカメムシです。朽木にはゴミムシやクチキムシ・キセルガイ。キロテントウムシも見つけましたが、これはウドンコ病菌を食べてくれるありがたいテントウムシだそうです。テントウムシの間にはニジュウヤホシなどという植物を食い荒らす困り者もいますが、たいていはカイガラムシやアブラムシを食べる正義の味方です。



愉快的な名前仲間たち!

お次は事前に巻いておいた幹のコモを白い布を張った上ではずします。パラパラと落ちた5mm程の小さな虫はほとんどがクモの仲間。シロエビグモ・マネキグモ・フノシグモ(カニグモ科)・フクログモの仲間・アリグモ(ハエトリグモ科)、と形状と名前が一致するのが愉快。シギゾウムシはマンガの象のような顔でした。

枯れ草には3月頃孵化するというカマキリの卵のう。そしてこの日は2月としては記録的な20度という気温。寒い日は葉の下でじっとしているムラサキシジミやキタキチヨウといった越冬する蝶の飛び姿も見られました。

残念ながらお目当てのカブトムシの幼虫は見つけることができませんでしたが、今まで気にも留めていなかったような小さな虫たちをたくさん観察できて、大人も子どもも「楽しい発見の日」になりました。

(報告: カニ山の会 なお)



冬の虫たちはこんなところに隠れている



はずしたコモの下からパラパラと落ちてきた小さな虫たちを白い布上で観察する。



石川講師の説明を真剣に聞く子どもたち

多摩川今昔⑥

地元生まれの戸部英貞先生に、ちょっと昔の調布のようすを連載していただいています。

河川敷の植物

小学生の頃、遊びと言ったら多摩川が河原は格好の遊び場だった。天気さえ良ければ学校から帰ると直ぐにランドセルを放り出し、多摩川に出かけるので、親たちもいい顔はしないが、魚採りだけでなく、小石を拾って水切りをしたり、どこまで投げられるか競ったり、何といて決まった目的もないのに出かけていった。

そんなある時、日頃は特別な興味もないのに、何気なく摘んで帰った草を母親が喜んだことから、多摩川からの帰りには母親が喜びそうな花を摘んで帰るようになった。

甲州街道以外の路はほとんどが未舗装で、道端はどこも草が茂っていた。現在の桜堤通りは旧堤（内堤）と呼ばれ、荷車やリヤカーの車輪が踏むところ以外は草が生い茂り、行き帰りには、中央部のチカラシバを結んで、後から来る仲間の足をさらう悪戯をしたりしていた。

土手沿いの道は今ならば野草の宝庫とでも言える場所で、堤の路肩に生えていたワレモコウは、ボウズバナと呼んで母親がことのほか喜んだ覚えがある。

旧堤（桜堤通り）と新堤（多摩川土手）との間は府中

用水が流れ、河川敷は草原になっていて、多摩川本流への行き帰りは、一面のマツヨイグサ群落の中を、踏み後を頼りに通った。夕刻になると、マツヨイグサが開き、甘い香りが漂い、遊んだ帰りには母親への土産にカワラナデシコ、マツヨイグサ、ワレモコウなどを摘んで持ち帰った。中学生になって植物に興味を抱くようになってからも、多摩川は恰好のフィールドで、その頃から増えだしたオオマツヨイグサの花の写真を撮るために、月明かりを頼りに通ったこともあった。

そんな河川敷も今はグラウンドや宅地に変わり、府中用水は深い三面コンクリートで、魚影を見ることもなくなり、河原植物の姿も消え、マツヨイグサの仲間も、アレチマツヨイグサやコマツヨイグサに入れ替わってしまった。（戸部）



モニターメンバーが撮影した7月のアレチマツヨイグサ
4月はロゼット状の葉が目立つ

活動記録コーナー

◆入間・樹林の会

1月18日 参加者9人

方形枠調査を全員で行った。一時よりごみが増えたので毎回ごみ拾いがかかせない。犬の散歩など、樹林地内での市民の散策は歓迎だが、犬のふんの処理やごみのポイ捨てはいただけない。市民のマナーをどのように訴えるのか、いつも課題である。立ち入ってほしくないところもあり、「今後はさらに誘導路を設ける必要があるのでは？」の提案があった。



木枠内の植物の名前やサイズをチェック

その後ふぐちりパーティーをしたが、2ヶ月続きの屋外での食事は風もなく暖かい陽もあり豊かな時間を過ごせた。今後の会の運営や樹林地をどうするか、意見交換をいつになくゆったりと行うことができた。



2月15日 参加者8人

ちょうふ環境市民会議への参加や樹林の会の会費について意見交換した。会費の徴収はよいが市のボランティア活動への理解不足など、市民との協働についての課題も出された。保全区域が広がり市民の立ち入りも増えたため、保全活動への参加者を増やす手立てが必要である。年度末の伐採木の選定をし、緑と公園

課へ申し出ることとした。

3月15日 参加者7人

会として参加を決めた「ちょうふ環境市民会議」の設立総会と重なったが、のび放題になっていたあじさいの剪定作業を行った。今年は花は望めないが来年に期待したい。樹林地内は花木も少ないので通年で楽しめるよと思う。2月25日にNTT住宅跡地から移植したニリンソウは根付いていることが確認できた。（安部記）

マンリョウの赤い実



アジサイの剪定作業

◆野川で遊ぶまちづくりの会 --田んぼの学校--

1/10(土) 今年の活動は10日の佐須地区の「どんと焼き」参加から始まりました。その後堆肥の切り返しをし、2月7日には収穫した稲藁で縄をないました。

3/8(日) いよいよ卒業式です。揃って無事に修了証書を頂きました。1年を振り返ってみると、稲作は従事者以外の国民に大変冷遇されていますが、自然環境を良くし、動植物を守り、従って人間も守り守られている事を強く感じました。そして太陽の有難さもつくづく意識させられました。

1年を通しての準備作業は大変な仕事で手間は掛かりますが1回しか出来ない収穫の時はお金では決して買えない喜びを味わいました。この農作業を日本の義務教育に組み込んで欲しいと思うこの頃です。
(08年度作業報告担当 佐々木)

** 春の田んぼの植物 **

春が来ました。私たちが体験学習している田んぼはすっかり緑色。そして花盛りです。

田んぼの中に育つ野草は、イネと共に生きるための秘密があります。この時期に元気に田んぼに育つ植物たちに共通している秘密は、「越年草」という生き方。まだ寒い冬に芽を出し、早春の、強くなり始めた日の光を浴びて生長し、すばやく花を咲かせ、田んぼが耕されてしまう前に種子を散布する生活史を持つものです。

名前をあげれば、オオイヌノフグリ、コオニタビラコ、ムシクサ、タネツケバナ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ミドリハコベ、スズメノテッポウ...

これらの植物は、毎年初夏には耕されてしまうことを知っているのでしょうか。イネのいぬ間の広い田んぼで、色とりどりの小さな花々は春

を謳歌しています。
※今年度は田んぼの学校の植物について色々お知らせしていきます。
(田んぼの学校 Y.I)



◆カニ山の会

2/14(土) 晴れ
参加者 17名+講師
・春を待つ虫の観察会(1面参照)

※3月の活動は雨のため中止でした。次回4/11(土)10時～。

..... 活動記録コーナー

◆若葉の森の会

1月以降3月までに定例の保全活動のほかに臨時活動を加え、5回の保全作業を行いました。

1/11(日) 参加者募集のチラシ配布の効果が表れたのか、新人を含め過去最高の12名の参加者がありました。

平成21年度の活動計画について意見交換・検討を行うとともに、若葉町第三緑地の目指す姿について話し合いました。その後、第三緑地下部入口周辺のシュロやアオキの伐採、下草刈りに加え、林床に陽光を取り込むための小木の間伐を行いました。

作業時間が不足するため、2月より午前9:30現地集合とし、休憩時間に話し合いを行うことにしました。

緑地の整備が進むにつれて、昔に不法投棄されたゴミが地中から出現し(小判が埋もれていれはうれしいのですが・・・)、しばらく苦労が続き

そうです。

3/19(木) それでも、下草刈り作業でホタルブクロなどの新芽を見つけ、ウグイスの初鳴きを耳にするなど、春を身近に感じる喜びも享受しています。(住田)



◆環境モニター

3/7(土) 晴れ 参加者 16人

布田にあるヘビ山で08年度の雑木林塾生と共に植物観察を行った。

久しぶりに訪れるヘビ山はまた何本かの立ち木が伐採されたようで、少し寂しい。カシなどの実生(こぼれた種から自然に芽生えた木)が何

本も葉を付けていたが、郷土博物館北側は相変わらず原っぱになっており、雑木林になっていくようすは感じられない。



モミジバフウの可愛い実を拾いながら、小澤講師に1本1本の名前を聞きながら確かめたり、メンバーの戸部先生に子供の頃のようなすを聞いたりしながらの観察。

ヤブジラミ・ムラサキケマン・ヤブタバコ・ツルボといった雑木林の植物の葉は出始めたばかりだが、春1番を知らせるマンサクは1,2輪を残して花は終わっていた。エゴノキにはおいしそうなキクラゲがびっしり。コゲラの姿も見える。

南側にある田んぼも観察。暖かい陽射しの中、コオニタビラコやレンゲ・ハハコグサ・スズメノテッポウという懐かしい草花も観察できた。

ヘビ山は私有地を市が買い上げてくれた場所。有志による保全グループの誕生が望まれる。(鍛冶)

☆ 環境市民 エコ活動カレンダー & おしらせ ☆

5・9 アースデイ in ちょうふ

続・「食の未来」

— たいせつにしよう。私と生きものと地球 —

会場 調布市役所前庭 10:00~16:00

★ 同時開催「ぶんぶん通信」上映会

監督 鎌仲 ひとみ

上映会場：総合福祉センター201・202

上映資料代 500円(小・中学生以下無料)

タイムスケジュール(予定)

① 11:00~12:30 トーク 12:30~13:15

② 14:00~15:30 トーク 15:30~16:15

今撮影中のドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」の進行中の様子を90分に編集した映像の上映会です。

鎌仲監督もアースデイ当日は一日参加していただきます!

色々な話を伺うことができると思います。乞うご期待。

清明 4月5日頃からの24節季のひとつです。芽吹いてきた緑が展開し始め、何もかも清々しく美しい季節です。

カニ山の芽吹きが目立つ頃、祇園寺でもお釈迦様の花祭りがおこなわれます。

お釈迦様にかけられる甘茶

と呼ばれる飲み物はガク

アジサイの仲間である

アマチャを煎じたもの。

これは色々な種類のアジ

サイが植えられている深大寺城址

でも見ることができます。



【編集後記】

★2ヶ月ごとの発行になると活動の記録が増える。自然に関する小さな発見や、市民に呼びかけたいこと、行政にお願いしたいこと。みんな書きたいことが一杯。編集も一苦労だが、もっともっと多くの方に書いていただきたいし、読んでいただきたい。今年度も身近な自然を楽しみたい。(N.K.)

★3・15は2009年から「ちょうふ環境市民会議の設立記念日」となった。まだというかもうなのか28人がその場で会員になってくれた。団体会員も着実に増え人の交流から情報共有そして行動へと進んでくれればうれしい。あくともローカー-&しんくグローバリーをモットーに!(江刺)

Schedule Schedule 全ての会でメンバー随時募集中! Schedule

◆カニ山の会

原則毎月第2土曜に自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所(野草園横)へおいで下さい。

年会費500円+保険料

●4/11(土)10:00~12:00

/枝切り・積み上がっている下刈り笹や伐採した枝等を入り口付近まで運搬。

●5/9(土)10:00~12:00

/樹林の保全活動

問合せ 環境政策課 042-481-7086

◆入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に活動しています。参加希望の方は直接入間地域福祉センターへおいで下さい。

●4/19(日)9:30~12:00

/方形枠調査とアジサイ剪定その他。

●5/17(日)9:30~12:00

/下草刈りとシュロ伐採など。

問合せ

環境政策課 042-481-7086

または緑と公園課 481-7083

◆若葉の森の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所入間地域福祉センターへおいで下さい。

●4/12(日)10:00~12:00

●5/10(日)10:00~12:00

/各回とも樹林の保全活動

問合せ: 緑と公園課

042-481-7083 まで

◆環境モニター

5月第1土曜から今年度の活動を開始します。詳しくは

環境政策課 042-481-7086 まで

◆野川とハケの森の会

●4/12(日)10:00~12:00

場所 カワセミ館 総会

●5/16(土)10:00 カワセミ館集合

野川・多摩川散策

カワセミ館(谷戸橋側)→野川→兵庫島→多摩川

問合せ: 070-5566-3437(大山)

http://www.ne.jp/asahi/nogawa/hake/

入会方法: HPのメールから、または

イベント等随時(入会金2000円)

今回の散策参加: 希望者はカワセミ館に

直接集合(その場で参加登録)

市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は旧ちょうふ環境市民懇談会が発展的に解散しあらたに「環境市民会議」設立に向けて活動を継続したのを受けて、ちょうふ環境市民会議広報部会が発行しています。

2009年1月から、これまでの毎月発行から隔月発行に変更しました。今後、ちょうふ環境市民会議の広報紙も発行の予定です。あわせてご愛読下さい。あなたの「ちょこっとエコ応援」をまっています。

発行: ちょうふ環境市民会議